



くらしき作陽大学鶴声会

前会長 井端 豊実

卒業年:昭和46年
学科:音楽学部音楽学科
専修:トロンボーン専修

鶴声会会員の皆様、その後お変わりございませんか。

東日本大震災、福島原発事故から早や5年が過ぎました。国家事業としての復旧・復興が進む中、去る4月14日、熊本県熊本地方を震源とする大地震が発生。多くの方が犠牲となり甚大な被害を与えました。観測史上初めて震度7を連発するなど極めて活発で未だ余震が続いています。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、被災地の1日も早い復興を願っています。

さて、今年度、くらしき作陽大学は50周年の大きな節目を迎えました。会員の皆様におかれましては作陽で過ごした懐かしい日々を思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

一回顧録 人生の扉「トロンボーン」

私は兵庫県但馬地方の寒村で生まれ育ちました。高校時代は吹奏楽部に所属していたものの、その演奏技術は趣味の領域に

過ぎず、およそ芸術とはほど遠いものでした。ところが、大学入学後にトロンボーンからトロンボーンに主科を転科。

その時に両親が買ってくれたのが、YAMAHA製のトロンボーンでした。初心者向けの廉価なものですが、決して裕福でなかったわが家にとっては大変な出費でした。にもかかわらず、卒業まで大学の楽器を借用しそのケースを開くことはありませんでした。両親には申し訳ないと思いつつも、幼い頃から英才教育を受け、高価なマイ楽器を持っている同期生の手前、ただただ恥ずかしかったのです。しかし、この経験こそが私の人生の原点となりました。

ひたすら練習を続けることで必ずみんなに追いつき、追い越そうと。そして、貧富の差や才能のあるなしにかかわらず、すべての子どもたちに音楽の楽しさを伝えられる教師になりたいと。以来、音楽とともに歩み続けて43年。その間、いくつもの楽器を新調しましたが、どうしても手放せなかったのが、両親に買ってもらったトロンボーン。ボディはすっかり輝きを失ってしまいましたが、両親への思いは年を経るごとに増すばかりです。そして、私の人生を支えてくれた「継続は力なり」。言葉の力に感謝の気持ちで一杯です。

最後に、会員皆様方の今後益々のご活躍とご健勝を祈念し、挨拶とさせていただきます。



くらしき作陽大学

学長 松田 英毅

今年は、大学創立50周年に当たり、10月17日に大勢の来賓のご出席をいただき盛大に式典が行われました。

私が作陽に着任したのは昭和47年で、大学が創立され6年経っていましたが、堤温先生の熱弁と行動力があり、大学全体に熱気がありました。学生会長や学生のリーダーが良く学長室へ来て、大学のさまざまな課題について語り、演奏会には殆んどどの学生が津山文化センターに出かけました。飲み会もよくあり、先生方と学生が音楽やプロの音楽家について語りあっていました。これらのことが原動力となり大学の基盤ができたと思います。その後、渡邊暁雄先生が着任され世界的に話題になった津山国際総合音楽祭を始め、続いて岩城宏之先生の指揮で東京サントリーホールで学

生オーケストラでは世界初と思われるストラビンスキーの三大舞踊曲を見事成功させ、更に、モスクワ音楽院の分校に当るものを作陽につくり、名実ともに全国区の音大になりました。そして今学生たちは質の高い演奏活動を続けています。

平成9年に名をくらしき作陽大学に改め食文化学部をつくり、平成20年には子ども教育学部を創りました。食文化学部では管理栄養士国家試験で全国トップクラスの成績を上げており、子ども教育学部では公立の小学校、特別養護学校、幼稚園、保育園の採用試験では非常に高い合格率を示しています。このように、三学部の学生たちはめざましい活躍をしています。これらのことは、「念願は人格を決定す 継続は力なり」のことばのもとに卒業生、教職員、学生が真面目に頑張ったからだだと思います。



くらしき作陽大学鶴声会

会長 安部 欽也

卒業年:昭和52年
学科:音楽学部音楽学科
専修:打楽器専修

鶴声会会員の皆様、いかがお過ごしですか。

平成28年10月15日同窓会総会にて会長に就任した安部欽也と申します。どうぞよろしくお願い致します。

くらしき作陽大学は、創立50周年。人生に例えれば、いよいよ「成熟期」とも言える節目を迎えました。このことは、作陽音楽大学創生期時代からの諸先輩のご功績とご苦労の下地ができていったからこそです。くらしき作陽大学が、今後とも地域社会の要請に応え続けられるよう「良き大学の伝統の継承」と「確かな教育ビジョン」を見据え、未来に向けてますますの発展と展開を続け活躍されることを我々卒業生は、強く願っています。

10月17日、くらしき作陽大学創立50周年記念式典が聖徳殿にて執り行われました。教育界、政財界などから240人が出席。はじめに松田英毅学長が建学の精神やこれまでの歩みを振り返ると共に、今後くらしき作陽大学は「心豊かな人類社会のために貢献できる若者を育成したい」と力強く式辞を述べられました。また1999年から提携するロシア国立モスクワ音楽院のアレクサンダー・ソコロフ院長から国内外に刻んだ半世紀のくらしき作陽大学の足跡を同音楽院の卒業生を通訳者とし、祝辞をいただきました。その後、学生代表の仙波万季さんから、大学創立の喜びと学生として一層の飛躍を誓いました。式典に続き、藤花楽堂にて日本の伝統芸能である狂言の人間国宝、野村万作氏(重要無形文化財保持者)、野村萬斎氏による記念公演を盛大に挙行することができました。また、鶴声会・同窓会では学生のみなさんに記念品として大学の食堂に机114台と椅子684脚を寄贈致しました。併せてご報告させていただきます。

10月15日、くらしき作陽大学キャンパス内にて隔年で行っている鶴声会総会を開催いたしました。(井端会長は、平成20年に松井会長からバトンを受け継がれました)今年度の総会で、会長の職務を退かれる井端豊実会長のご挨拶文を紹介させていただきます。



主な内容は

- ・2年ぶりの総会、出席いただいたお礼。
- ・本年4月、熊本県を中心に大分地方を含んでの大規模な地震が発生しました。そのお見舞いと、本学の同窓生の被災を心配されていました。
- ・大学が昭和41年津山鶴山城址を望む桃山の地に、西日本唯一の音楽大学として創立して50周年を迎えることができたこと。大学が倉敷市の財産として、高く評価をいただき、市民からも愛される大学となったこと。
- ・同窓会の課題としては、音楽学部の卒業生は9600名を越える。食文化学部も2000名を越え、子ども教育学部も400名近くとなる。3学部共に、学部独自の同窓会活動ができる状態になってきている。
- ・創立50周年を機に、音楽学部・食文化学部・子ども教育学部が一体となった同窓会への改革の検討が必要である。また、食文化学部・子ども教育学部の参加しやすい環境の整備が重要、といった内容と記憶しています。

今後同窓会では、3学部の卒業生の皆様がそれぞれの職場で活躍されている情報をより広く紹介するなど、同窓会の一体化・活性化を目指してまいります。また、現在抱えている諸問題の一つひとつ解決できるように大学と協力し、より良い改革に向けて鋭意努力いたします。井端先輩、永年の会長職大変ありがとうございました。

午後からは、大学食堂にて懇親会が開催され、大学側から松田英毅学長、吉田一成副学長が出席されました。同窓会顧問の菊井氏の乾杯に始まり、和やかな一時が流れゆく中、昔話にふれたり最近の話題にふれたり、参加者は久しぶりの親交を楽しむことができました。

鶴声会支部組織では、北は北海道から南は沖縄県まで21名の支部長を中心として活動を行っています。特に関西支部、山口県支部、愛媛県支部、高知県支部、鹿児島支部、沖縄県支部など支部独自の企画によるコンサート等が開催され会員相互の親睦を深めています。香川・高知・兵庫・鳥取県では教員、大学生による吹奏楽クリニックを開催しています。今後のご活躍をより一層期待しています。

最後に、会員皆様のご今後ますますのご活躍とご健勝を祈念し、併せて鶴声会への変わらぬご指導・ご鞭撻の程お願い申し上げます。併せて鶴声会への変わらぬご指導・ご鞭撻の程お願い申し上げます。



新しくなった食堂の机と椅子

くらしき作陽大学鶴声会総会が開催されました

鶴声会 副会長 片山 嘉政



卒業年:平成2年
学科:音楽学部音楽学科
専修:打楽器専修

2016年10月15日(土)、くらしき作陽大学にて鶴声会総会を開催いたしました。
井端会長挨拶の後、平成26年度及び27年度の事業報告、会計報告、監査報告がなされ異議なく了承されました。また会員より、(現在、井端会長が九州吹奏楽連盟理事長の職に就かれていることもあり、)安部副会長を会長に推薦したい旨、提案があり、異議なく了承されました。
総会終了後は、食堂に移して懇親会を開催しました。
安部欽也新会長挨拶の後、現役生によるサクソフォンアンサンブル、卒業生によるベリーダンス披露があり、サプライズとしてDrum&Brass Corps "MUSICA"のみなさんが同窓会よりマーチング衣装を寄贈いただいていることへの感謝の気持ちをこめて、中庭でマーチングを披露していただきました。
松田英毅学長先生、吉田一成副学長先生も駆けつけてくださり、50周年の記念の年に総会が開催されるお祝いと、大学創立50周年のお祝いに同窓会が寄贈した食堂の什器(机114台、椅子684脚)のお礼が述べられました。
最後は吉田一成副学長先生よりご挨拶をいただき、参加者一同2年後の総会での再会を約束して散会しました。
次回は、2年後の2018年開催です。是非ご参加いただきますようお願いいたします。



組織図

2016.12.1現在



在学生の声

金田 英大さん

岡山県作陽高等学校出身 食文化学部 現代食文化学科4年



私は、子どもたちに「おいしい」といってもらえるような給食の先生になりたいと思い、くらしき作陽大学への進学を決めました。
4年間の中で大変だと感じる時もありましたが、調理の技術や、「食」に対する幅広い知識を学ぶことができ、それ以上にやりがいや楽しさを感じることができました。
サークルにも積極的に参加し、他学部の学生とも交流を深めることができました。
現在は、4年間学んだことを活かして就職活動に取り組んでいます。

難波 あおいさん

岡山県立新見高等学校出身 子ども教育学部 子ども教育学科4年



私は以前から教育に関心をもっており、なおかつ地元の大学ということもあって学ぶ環境も適していると思ったので進学を決意しました。
本学の先生はとて親しみやすく、魅力的な先生ばかりでどんなことでも親身になって応援して下さるのでこの4年間とても充実した学生生活を送ることができました。そして学生生活以外にも本学オープンキャンパスのスタッフなどにも積極的に参加し、たくさんの人との交流も大切にしてきました。将来は、小学校教諭として子ども達から親しまれ、愛される先生を目指して頑張りたいと思います。

戸次 慎治さん

福岡県立北筑高等学校出身 音楽学部音楽学科4年



私の中学・高校時代の恩師は作陽大学の卒業生であり、お世話になっている先輩方も本学卒業生ということもあり、進学を決めました。
本学は演奏会の機会が多く、吹奏楽やマーチング、オーケストラに打楽器アンサンブルなど様々な本番を経験することができました。そして楽器も豊富に取り揃えられているのでいつでも練習が出来る環境が整っていました。たくさんの仲間にも恵まれ充実した4年間になりました。
卒業後は自衛隊の音楽隊に配属が決まりました。これからも音楽を通してたくさんの人に音楽を届けたいと思っています。



Drum&Brass Corps "MUSICA"のサプライズ演奏



卒業生によるベリーダンス



藤花楽堂ツアー

鶴声会役員紹介

顧問



会長



副会長



事務局長



事務局



会計



書記



常任幹事



常任幹事



幹事



幹事



監査



結成15周年を迎えた姉弟ピアノデュオ

片山 美希さん
卒業年:平成22年 音楽学部音楽学科 ピアノ専修

片山 舜さん
卒業年:平成25年 音楽学部音楽学科 ピアノ専修

姉弟でピアノデュオを組み、今年で16年目になります。大学在学時に結成10周年となり、恩師である竹内京子先生より「Bella Luce ベラ ルーチェ」という素敵なお名前をいただきました。様々な場所でベラ ルーチェとして演奏活動を行って参りましたが、昨年15周年の節目として、5月に地元福山での初りサイトを開催いたしました。連弾、ソロ、2台ピアノでプログラムを構成し、「クラシックをもっと身近に感じていただきたい」という趣旨のもと、トークを交えながら、耳馴染みのある曲も演奏いたしました。会場は、時折笑い声も聴こえる和やかな雰囲気、私たちにとって忘れられない大切な一日となりました。現在は、共にくらしき作陽大学子ども教育学部でピアノの指導をしておりますが、指導や演奏を通して、学生達に音楽の楽しさや素晴らしさを伝えられたらと思っています。そして、将来教鞭に立つ学生がまた、ここで学び感じたことを、子どもたちに伝えていってほしいと願っております。



福岡市消防音楽隊で大活躍中の3人をご紹介します!

松本 可奈子さん
卒業年:平成23年 音楽学部音楽教育学科 吹奏楽指導者専修

林 美穂さん
卒業年:平成26年 音楽学部音楽学科 ユーフォニアム専修

石川 遼さん
卒業年:平成27年 音楽学部音楽学科 トランペット専修



みなさんこんにちは!
私達は福岡市消防音楽隊に勤務して数年が経ちますが、大学を卒業した現在でも音楽活動ができる環境で仕事ができ、とても幸せに思います。
さて、福岡市消防音楽隊は昭和41年に発足し、市民に親しまれる消防音楽隊として、昨年50周年を迎えることができました。隊員の多くは日頃消防士として市内の各消防署で勤務しており、消防・救急業務の第一線で市民の安全を守るかたわら、練習を重ね、博多どんたく港まつりや市民総合スポーツ大会をはじめ、市内で行われる様々な行事で演奏活動を行い、防火・防災の呼びかけや市政のPRを行っています。私たちは、その中でも専属の嘱託隊員として勤務しており、楽器演奏だけでなく、係事務や演奏指導、マーチング指導などにも携わっています。年間の演奏回数は100回以上で、聴きに来てくださった市民の皆様からの温かい声に励まされ、日々やりがいを感じながら仕事をしています。
消防音楽隊は5年に一度の記念演奏会を行っておりますが、5年前は東日本大震災のため記念演奏会が開催されませんでした。平成28年3月に行われた50周年記念演奏会は、10年ぶりの演奏会開催でとても大変でしたが、50年という節目に携わることができて、とてもいい経験をすることができました。「ありがとうを音楽にのせて」をテーマに記念演奏会を構成し、50年分の感謝の気持ちを市民の皆様へ演奏で恩返ししたのですが、逆にご来場いただいた多くのお客様から「ありがとう」という言葉をいただき、音楽の素晴らしさを体感することができました。
私たち3人は、音楽を続けたことによって、卒業学年は違いますが、学年の枠を越えて消防音楽隊で出会えました。音楽を通じてたくさんの人との出会いもあり、音楽は本当に素晴らしいものだと思います。大学の頃に学んだ演奏技術や演奏活動が、今の仕事にとっても役立っており「念願は人格を決定す、継続は力なり」ととても実感しています。
これからも市民に愛される消防音楽隊でいられるよう私たちなりに頑張っていこうと思います。

ユーフォニアム奏者 本庄 直子 さん

卒業年:平成5年 音楽学部音楽学科 ユーフォニアム専攻



私が学生生活を過ごしたのは、まだ大学が津山市にあり、大学名が「作陽音楽大学」の頃でした。自然が豊かでどかな環境で伸び伸びと学び、音楽と向き合っていた事を、このお話をいただいて久しぶりに思い出しました。

卒業後、陸上自衛隊第13音楽隊員として吹奏楽の世界で音楽に携わりました。結婚を機に退職した後は、もっと自由に自分のやりたい音楽活動がしたいと、小さいながらもコツコツと演奏活動を続けています。

演奏会に来られた方々の笑顔が見られる事が、本当に嬉しく、何より幸せな事です。これからも、私らしく、私にできる音楽活動で音楽の素晴らしさを伝え、ユーフォニアムという楽器を広めて行きたいと思っています。

いつも鶴声会様には温かく応援していただき、大変有難く、心より感謝しております。「母校」との絆を感じられ心強く思います。これからもどうぞ宜しくお願い致します。

本庄直子さんホームページ: <http://euphonium.sakura.ne.jp>



作陽トランペット同窓会開催

2015年11月22日に作陽トランペット同窓会を発足し第1回目の同窓会を開催いたしました。椿先生にもご参加頂き1期生から現役の50期生まで幅広くご参加頂き、新旧の交流はもとより、懐かしい顔ぶれが楽しい時間を過ごすことが出来ました。



20年ぶりの同窓会開催

教育音楽学科 2期生 佐藤素子

遡ること20年前、津山国際ホテルにて学教と学幼の同窓会を開きました。当時は仕事や子育てで大忙しの時期だったので、津山が会場の同窓会は「行きたくても無理」という方々も多かった同窓会でした。

あれから20年、1期生はそろそろ60歳の大会が目前という年齢になりました。昨年8月29日、岡山全日空ホテルで懐かしい同窓生が100名集まりました。

お忙しい中8名の先生方もご参加くださり、卒業以来初めての参加の人もありましたので、30年ぶりの再会ということで当時の思い出話や近況についての語りなど、あちこちでたいへん盛り上がって参りました。

会も終盤、楽譜が配られいきなり本番の大合唱が始まりましたが、そこはさすがに音大卒。五味先生も快く指揮を引き受けてくださり、2部3部合唱と美しい歌声が会場に響きました。学長先生や吉田先生も無茶ぶりだった指揮をスマートにこなして頂き、興奮の渦に包まれながらあっという間の同窓会が幕をおろしました。

同窓生がお互いに旧交を温め、次回も会いたいねと名残を惜しみつつ本当に心に残る同窓会となりました。

